



さあ、答え合わせをしよう！

Vol.87 お宝ベスト5～茨城県(いばらきけん)

※ココを見てね! ▶ 茨城県～「お宝ベスト5」

1. 「いずみちゃん」の愛称(あいしょう)でよばれている、人の顔(かお)が貼(は)り付(つ)いた土器(どき)は、どこからみつけられましたか？

正解:③泉坂下遺跡(いずみさかしたいせき)

人面付土器(じんめんつきどき)は、再葬墓(さいそうぼ)から発見(はっけん)されることが多い土器棺(どきかん)です。再葬墓(さいそうぼ)とは、亡(な)くなった人を埋(う)めたり洞穴(ほらあな)などに置(お)いたりして一度葬(ほうむ)ったあと、骨(ほね)だけになってから遺体(いたい)を壺(つぼ)や甕(かめ)などに入れて埋(う)めた墓(はか)のことで、弥生時代(やよいじだい)の中ごろの東日本(ひがしにほん)に多く見られます。正解は、③泉坂下遺跡(いずみさかしたいせき)で出土(しゅつど)した“いずみちゃん”でした。国指定の重要文化財(じゅうようぶんかざい)に加え、常陸大宮市(ひたちおおみやし)で商標登録(しょうひょうとうろく)までされています。ちなみに、「和泉寺跡(いずみてらあと)」は大阪府和泉市(おおさかふいずみし)にある約1300年前に建てられた寺の跡(あと)。「泉遺跡(いずみいせき)」は、栃木県那須烏山市(とちぎけんなすとりのやまし)、千葉県君津市(ちばけんきみつし)、宮城県名取市(みやぎけんなとりし)にあります。

2. 坪井上遺跡(つばいじょういせき)からは、新潟県(にいがたけん)と交流(こうりゅう)があったことをしめすお宝(おたから)がみつけられました。2つあるよ。次のうち何と何かな？

正解:②ヒスイ製大珠(ひすいせいだいしゅ)と③火焰型土器(かえんがたどき)

新潟県(にいがたけん)といえば、全国有数(ぜんこくゆうすう)の米の産地(さんち)。だから「コシヒカリ」!とりたいところですが、「お宝ベスト5」4つ目にちゃんと書かれていますね。茨城県(いばらきけん)の坪井上遺跡(つばいじょういせき)で、ヒスイ製大珠(ひすいせいだいしゅ)や火焰型土器(かえんがたどき)が見つかっています。このことから、縄文時代(じょうもんじだい)、新潟(にいがた)の人と交流(こうりゅう)があったことがわかるのです。糸魚川(いとがわ)のヒスイは、その質(しつ)の良さが珍重(ちんちょう)され、全国へとひろまっていきました。

3. 三味塚古墳(さんまいづかこふん)からは、とても珍しくて美しい、金銅製の冠(かんむり)が出土(しゅつど)しました。さて、どんな棺(かん)からみつかったの？

正解:①箱式石棺(はこしきせっかん)

三味塚古墳(さんまいづかこふん)は、霞ヶ浦(かすみがうら)北部の鎌田川(かまたがわ)の流域(りゅういき)につくられた前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)です。たくさんの埴輪(はにわ)のほか、その豪華(ごうか)な副葬品(ふくそうひん)の数々から、当時、このあたりをおさめた有力者(ゆうりょくしゃ)の墓(はか)とされています。正解は①、箱式石棺(はこしきせっかん)です。石棺(せっかん)は、形状(けいじょう)によって、割竹形(わりたけがた)・舟形(ふながた)、長持形(ながもちがた)、家形(いえがた)の大きく3つに分類(ぶんるい)され、また、その構造(こうぞう)から、組合式(くみあいしき)と刳抜式(くりぬきしき)の2つに分類(ぶんるい)されます。余談(よだん)ですが、おもしろいもので、現代(げんだい)のファッションと同じように、古墳(こふん)づくりにも流行(りゅうこう)があるそうです。ちなみに、割竹形(わりたけがた)・舟形(ふながた)は古墳時代の前期(こふんじだいぜんき)、長持形(ながもちがた)は中期(ちゅうき)、家形(いえがた)は後期(こうき)に流行(りゅうこう)しました。